

計測器校正の勘どころ

フォローアップ編・その3(第4回)・A2LA 校正メニュー価格の疑問

アンリツカスタマーサポート株式会社
計測テクニカルセンター
山崎 俊雄

《はじめに》

近年、計測器に対して国際的な基準で管理することが要求される場合が多くなっています。当社ではこれらのご要望にお応えするために、国際規格 ISO/IEC17025 に対応した校正サービス(JCSS 校正と A2LA 校正)のメニューをご用意しています。今回は当社の A2LA 校正サービスに対するご質問にお答えしたいと思います。

1. 一般的な校正サービスとの価格差について

先日、当社の A2LA 校正サービスをご利用のお客様から以下のご質問を頂戴いたしました。

Q: 市場で一般的に利用可能な校正サービスと(アンリツカスタマーサポートの)A2LA 校正サービスでは、同じような校正内容である場合、後者の方が価格面で高価であるように見える。同じ「校正サービス」なのに、なぜ価格の差が生じるのか。

確かにお客様からみた場合、「校正結果」そのものは一般の校正サービスも A2LA 校正サービスも本質的な差は無いように思えます。果たして、両者の「校正結果」のどこに違いがあるのでしょうか。

2. 国際規格に基づく校正の要求事項とは

一般の校正サービスは基準(標準)となるワーキングスタンダードさえあれば、誰でもすぐに始められる事業と言えます。しかし、自己流の校正作業のままでは国際規格に適合した校正サービスとは言えません。実際に校正サービスの国際規格への適合を宣言するためには以下の施策を実施しなければなりません。

- ①国際的な品質管理システムを導入し運用すること
- ②国際的な校正機関の認定スキームの中で校正機関の認定を受けること。またそれが識別されること
- ③認定を維持するために継続的な技術能力維持の努力を行うこと。また、技術能力が維持されている客観的な証拠を示すこと

3. 校正機関認定取得と維持の困難さ

実際に、①では国際規格適合の証拠としての品質記録(文書)が増加する困難さがあります。これは国際規格 ISO9001 などでの経験と共通するでしょう。

また②では、認定機関は校正機関に専門家を派遣して実際の校正作業工程と校正不確かさの算出方法を厳しく監査します。この立入審査は数日～数週間に及び、さらに2年を超えない間隔で繰り返し実施されることになります。最後に③ですが、認定校正機関は4年を超えない間隔で校正技能試験を実施し、審査時に結果を提示することが義務付けられています。このように、幾重にも監視のハードルが課される中で、認定校正機関は工夫して国際規格を満足する手法を確立しながら校正サービスを提供しているのです。

4. 校正作業自体にも違いがある

現在の校正機関認定では、校正値は十分独立した測定結果から統計的に導かなければならないとされており、具体的にこれを実現するためには、同じ測定を3～10回繰り返すことが要求されています。一般の校正サービスは1回の比較測定で終わることが多い状況を考えると、3倍から10倍の手間をかけて校正を実施していることが分かります。

このように、A2LA 校正サービスは一般的な校正サービスにはない付加価値を内在していると言えます。一般の校正サービスよりも高価にはなりますが、世界市場で通用する A2LA ログインリ校正証明書がもたらすビジネス上のメリットも大きいはず。目的と用途に応じて適切な校正サービスを選ぶということを心掛けていただくと幸いです。

チェック!

A2LA 校正サービスは、一般的な校正サービスには見られない特徴があります。校正機関の国際規格を満足することや校正作業工程の監査を受けることで、世界市場で通用する校正サービスを提供しています。